

平成 30 年度 第 3 回 逗子市国民健康保険運営協議会会議録

日時 2019 年（平成 31 年）2 月 12 日（火）

14:00～15:10

場所 市役所 5 階第 2 会議室

議題

- (1) 逗子市国民健康保険条例の一部改正について（報告）
- (2) 平成 31 年度逗子市国民健康保険事業特別会計予算（案）について
- (3) 平成 30 年度逗子市国民健康保険事業特別会計補正予算（案）について
- (4) その他

出席者 6 名

丸山 浩 委員 高津 恵一 委員 松岡 三夫 委員
池上 晃子 委員 金子 栄一 委員 田中 克彦 委員

欠席者

今村 隆男 委員

事務局

須藤福祉部長 廣川福祉部次長 廣末国保健康課長 塚本副主幹
西海副主幹 阿部主任

傍聴者

なし

会議概要

- ・会議成立の報告
- ・資料確認

議題（１）逗子市国民健康保険条例の一部改正について

事務局より説明

【松岡委員】この内容についてではないのですが、1点お伺いしたいことがあります。普通徴収といえば、納付書や口座振替などによる納付ということですが、この普通徴収にかかる納付書、口座振替などの割合がそれぞれ何パーセントくらいなのかを教えてくださいと思います。

【廣末課長】少しお時間をいただいてもよろしいでしょうか。

【丸山会長】ただいまのご質問に関しては、後ほど事務局から回答するというところで議題（２）に移りたいと思います。

議題（２）平成31年度逗子市国民健康保険事業特別会計予算（案）について

事務局より説明

【田中委員】歳出の総務費の運営協議会費における会議録反訳委託料についてご説明いただきたいと思います。

【廣末課長】ただいま開催されているこの国民健康保険運営協議会は、本市の附属機関という位置づけであり、本来は会議録とともに会議概要を作成する必要があります。これまではICレコーダーで録音した音声データを基に国保健康課職員がテープ起こし作業を行い、会議録としてまとめていました。しかし、本市の他の附属機関では反訳業務委託として契約を締結したうえで専門業者に録音データを送り、会議録を作成しております。本協議会においても他の附属機関同様に専門業者に業務委託し、会議録を作成するというところで平成31年度から新規に予算を計上いたしました。

【田中委員】分かりました。ありがとうございました。

【池上委員】資料⑤の歳入についてですが、1款1項1目の一般被保険者国民健康保険料が減っていますよね。1款全体として約4,460万円減っているのですが、この保険料が減った理由は被保険者数が減ったからですか。

【廣末課長】大きな理由としては今池上委員がおっしゃられたように被保険者数が減少したことによるものです。収入見込額が減少することから、今回減額の予算計上といたしました。

【池上委員】色々ところで高齢者が増えるから医療費も増えるという話をよく耳にしますが、実際には被保険者は減っていく見込みなのでしょうか。

【廣末課長】本市の国民健康保険の被保険者数は毎年約500～800人減少している傾向にあります。国民健康保険は74歳までの加入になりますので、75歳からは後期高齢者医療制度になります。国民健康保険の被保険者数の減少分は、ほぼ後期高齢者医療に移行している人数ということになります。後期高齢者医療の被保険者数は年々増加し、医療費や保険料も増加している状況にあります。逆に国民健康保険は減少している傾向にあります。

団塊世代が国保から後期高齢者医療に移る時をピークにさらに減少していくと見込んでおります。

【池上委員】 2節の後期高齢者支援金分現年度分というのも減っていますよね、後期高齢者が増えるにも関わらずこれは減少するのですか。

【丸山会長】 これは国保の被保険者数はかなり減っていますが、後期高齢者支援金の比率は高くなるので全体としての支援金の比率はむしろ高くなっているということですか。

【廣末課長】 はい、そうです。後期高齢者支援金は増えるのですが、それを負担する国保の被保険者数が減るため全体として減ったといえます。

【丸山会長】 要するに国保の被保険者数が減少しているため、金額としては減っているのだけれども、逆に支援金の割合は高くなっているということでしょうか。

【廣末課長】 はい、そのとおりです。

【池上委員】 これは比率ではなくて実際の数値で出ているのですよね。

【廣末課長】 県に納める納付金の比率によって金額が前後するので、後期高齢者数が増えたから後期高齢者支援金が増えるということではありません。

【池上委員】 後期高齢者数が減ったから支援金も減るというわけではないのですね。つまり後期高齢者数と支援金はリンクしていないということですか。

【廣末課長】 国保の被保険者数や後期高齢者支援金は減っているのですが、国保の被保険者1人当たりの負担額は増えているのですが、全体としては下がるということですか。

【丸山会長】 1節の医療給付費分現年分の比較が96.39%で、それに対して2節の後期高齢者支援金分現年分が97.3%ですから、減少の割合は支援金の方が低い。だからその分1人当たりの支援金負担額が増えているということでしょうか。

【池上委員】 もう1つよろしいでしょうか。6款の繰入金ですが、1項1目一般会計繰入金が前年度に比べて964万3,000円増えていますよね。

【廣末課長】 はい、そのとおりです。

【池上委員】 それで繰入金全体としては2,799万3,000円増える見込みなのですか。

【廣末課長】 はい、そうです。

【池上委員】 5節その他一般会計繰入金が1億円減額になっているのですが、繰入金全体では増えている理由はなぜですか。

【廣末課長】 6款1項1目一般会計繰入金の1節保険基盤安定繰入金ですが、保険料の軽減措置に応じて国と県が負担します。平成30年度に応能・応益割合の改正と軽減措置6割・4割から7割・5割・2割へという見直しを行ったため、国・県・本市の負担割合が増え、保険基盤安定繰入金自体が9,900万円の増となります。あと、2節職員給与費等繰入金につきましては、職員の経験年数等で金額が変わってきます。このほか、システム改修等の経費分として約1,100万円の歳入増が見込まれています。5節その他一般会計繰入金、いわゆる法定外繰入金ですが、こちらが財政対策プログラムにおいて、毎年1億円削

減する方針が明記されています。平成 30 年度において、約 3.8 億円から 1 億減らした 2.8 億円、平成 31 年度については 2.8 億円から 1 億減らした 1.8 億円として予算計上していく予定です。2 項基金繰入金については、これまで国民健康保険事業運営基金繰入金を 3,165 万円繰り入れていましたが、平成 31 年度においては 5,000 万円として、約 1,800 万円の増で計上をしています。その関係から繰入金全体としては約 2,800 万円増加になります。

【池上委員】歳入全体では 1 億 7,760 万円の減になっていますよね。ということはそれだけ歳出を抑えなければいけないのですけれども、歳出のどの部分で圧縮しているのですか。

【廣末課長】歳出で 1 番大きく減少しているのが保険給付費です。こちらは歳入でもご説明したとおり、被保険者数が減少することによって、それにかかる療養給付費、いわゆる支払う医療費が全体としては少なくなります。あと 3 款の国民健康保険事業費納付金ですが、平成 30 年度に比べて約 7,000 万円が少なくなっています。この 2 つが歳出減少の主な理由です。

【池上委員】国民健康保険事業費納付金は県との関係ですから、減額になるというのは分かります。保険給付費については、一般及び退職等に係る給付費が減っていますが、それは今まで同様のペースで減ってきているのですか。もし予想どおりに給付費が減らないとすると当然補正予算を組むのですか。

【廣末課長】ここ数年の保険給付費、いわゆる医療費は減少傾向にあるのは事実です。ただ、1 人当たりの医療費が下がっているかといえば、1 人当たりの医療費については、ほぼ横ばいから微増です。保険給付費全体としては、被保険者の後期高齢者医療への移行などの理由から減っています。平成 24 年度、平成 25 年度当たりに見られた医療費の急激な伸びはここ数年なく、むしろ落ち着いてきているという状況です。ただ、これが平成 31 年度に新薬や高価な薬が開発され、医療費が急激に伸びるかもしれません。仮にそうなった場合には補正予算を計上せざるを得ないのですが、今までと違って平成 30 年度から県単位になりましたので、急な保険給付費の伸びがあっても、それは神奈川県からの交付金で賄われますので、市の一般会計からの繰入金が急激に増えるということはありません。

【池上委員】ありがとうございました。

【高津委員】国保の被保険者数の減少について、年間にして約 500～800 人が後期高齢者医療に移行しているということですが、一般的に後期高齢者のほうが国保の被保険者に比べて亡くなる方は多いわけですよね。この後期高齢者の死亡による減少分についてはどこにどのように反映されているのですか。要するに国保から減った分だけ後期高齢者が増えた先ほど説明がありましたが、実際には後期高齢者が死亡により減っていますが、その分はどこに反映しているのでしょうか。数字上で表しにくいとは思いますが、どこかに反映されていないとおかしいと思います。

【廣末課長】国保の被保険者の増減については、社保から国保になって新たに加入した方、

逆に国保から社保になり脱退された方、後期高齢者医療に移行される方、転入・転出、それ以外には出生と死亡があります。ただ、亡くなられた方は人数的にはそれほど多くはなく、平成 29 年度で見ますと、死亡により資格喪失した方は 90 人程度です。社保から国保になられた方、国保から社保になられた方の異動数が 1 番多く、それぞれ 1,500～1,600 人程度で差し引きは変わらず、出生により加入した人数が 40 人程度、それ以外の転入・転出もそれぞれ 470 人程度くらいでほぼ同数です。後期高齢者医療に移られる方が平成 29 年度だと 770 人くらいで、その人数が減少分になります。

【高津委員】ありがとうございました。

【松岡委員】資料⑤歳入の 4 款、県支出金についてですが、1 細節の保険者努力支援が前年度から約 600 万円増えています。この保険者努力というのは具体的にはどのように努力されるのでしょうか。

【廣末課長】保険者努力支援分には様々な評価項目があります。例えば国民健康保険の保健事業においてデータヘルス計画の策定の有無、保険料の収納率、生活習慣病の予防事業における糖尿病予防対策の実施の有無、重複頻回受診対策、医療費適正化、被保険者の健康の保持増進等の取り組みに対して点数化され、それによって金額が上下するのですが、要するに保険者としていかに努力をしているかという点が評価されます。

【松岡委員】分かりました。ぜひ、そういうことに力を入れていただければと思います。ありがとうございました。

【池上委員】資料④の歳出において、5 款保健事業費の 1 項、特定健康診査等事業費について、平成 31 年度は平成 30 年度に比べて 60 万円増えています。増えているのはいいのですが、逆に歳入の 4 款県支出金、4 細節特定健診等負担金は減っています。特定健診の金額が増えるのに、県支出金は減っているというのはどういうことでしょうか。

【廣末課長】特定健診が 60 万円増えている理由として、受診者数の見込みは平成 30 年度も平成 31 年度も 4,000 人で変更はないのですが、今年は 10 月から消費税が 10% になるため、その増加分として見込んだものです。歳入の特定健診等負担金については、これまでの実績として 3,000 数百人くらいで推移をしていますので、実績ベースで少なめに見積もりをしています。

【池上委員】ありがとうございました。

【廣末課長】先ほど松岡委員からご質問がありました普通徴収の内訳ですが、まず全体として普通徴収の割合が約 85%、世帯数だと国保全体の 9,174 世帯中、7,783 世帯が普通徴収ということになります。その内訳として納付書で納めている方が 45%、口座振替が 35%、そのほかに併徴といたしまして、前半が普通徴収で後半が特別徴収に切り替わる方が約 5% いらっしゃいます。

【松岡委員】分かりました。ありがとうございました。

【丸山会長】先ほど特定健診という話がありましたが、先日、国の二次補正で風疹の抗体

検査の実施が決定し、その受診率を高める意味で特定健診の際に風疹の抗体検査を 39～56 歳を対象として実施するという動きがあるようなので、また詳細は県等から連絡があるかと思いますが、平成 31 年度の事業についてはそちらもご承知おきください。

【廣末課長】風疹の抗体検査については、特定健診受診の際に一緒に受け、受診率も伸ばせるように対応していきたいと考えております。

【田中委員】風疹の抗体検査の話が出ましたけれども、長野県のある自治体では成人式開催時に新成人を対象としてピロリ菌検査を実施しています。私たちも非常に注目しているのですが、健康保険組合としてはなかなか同様に実施するのが難しい状況です。そのような若い世代に対して、ピロリ菌を除去すると将来胃がんになるリスクはかなり軽減されると聞いていますので、ぜひ今後は検討していただきたいと思います。

【廣末課長】本市では胃がんリスク検診がバリウム検診と併用して受けられますが、あくまでも対象は 40 歳以上になります。横須賀市では今年度中学 2 年生を対象にモデル事業として胃がんリスク検診を実施しましたが、平成 31 年度以降は中学 2 年生全員に対して実施していくと聞いています。検査方法も尿検査か何かで行い、それほど負担がかからないようです。本市としては実施については未定ですが、今後教育委員会とも調整しながら進めていきたいと思っております。

【池上委員】そのような予防接種等の費用は国民健康保険の特別会計とは別で、一般会計予算から予防接種費用や検査費用は支出するのですよね。

【廣末課長】そのとおりです。

【丸山会長】ほかにご質問はありますか。ないようでしたら議題（2）平成 31 年度逗子市国民健康保険事業特別会計予算（案）について、原案のとおりご了承いただいたということよろしいでしょうか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

それではご意見がないようですので原案のとおりといたします。

議題（3）平成 30 年度逗子市国民健康保険事業特別会計補正予算（案）について

事務局より説明

【丸山会長】ただいまの事務局の説明につきまして、ご意見やご質問等がありますでしょうか。特にないようでしたらこの議題（3）につきましては皆さまのご了承を得たということよろしいでしょうか

（異議なしと呼ぶ者あり）

それではご意見がありませんでしたので、議題（3）につきまして原案のとおり決定いたします。

議題（４）その他

【廣末課長】平成 30 年度の本運営協議会につきましては本日で終了となります。委員の任期は 2 年ですので、3 月末までになります。皆さまどうもありがとうございました。現在、次年度以降の運営協議会に向けて市民委員の公募をしています。応募期間を 2 月 20 日までとして 2 月広報に掲載しています。また各団体からの推薦による委員につきましては、改めて各団体宛に推薦依頼を送付させていただきますのでよろしくお願いいたします。また、次回の運営協議会から委員の任期が 2 年から 3 年に変更となりますのでご承知おきください。次回新年度の運営協議会の開催日程ですが、平成 31 年 4 月末頃を予定しております。その際には新しい委員の方々にご案内をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。事務局からは以上でございます。

【田中委員】最後によろしいですか。この国民健康保険制度というのは我が国の医療保険の中で 3,500 万人が加入する最大かつ大変重要な制度であり、医療保険制度のラストリゾート、最後の砦とも言われております。先日、厚労省の保険局長がある会議でこう発言しております。「今回の通常国会に提出する予定の健康保険法等改正案が医療保険システムを少しでも効率化し、将来に向けて合理化し、資源を患者医療のために集中できる基盤を整える改正だろう。これまでは保険料を集めて病気の人に給付することを医療保険と言ってきたが、これからは住民や職員の健康を守り、維持していくことが医療保険の役割となってくる。そういうことに向けて各保険者や医療費提供側に協力してもらうことが大事である。行政もそこに力は集中するようお願いしたい」こうおっしゃっています。私が逗子市の国保に期待したいのがまずは医療費の適正化です。以前、私は柔道整復療養費のレセプト内容点検について提案したことがありますけど、その後どうなったかは聞いておりません。私は逗子市に住んでおりますが、整骨院や接骨院の開業増加は止まりません。国保や後期高齢者医療の広域連合、生活保護者を食い物にしているようなことがまかり通っているように私は感じます。私の近所にもコンビニ以上に整骨院接骨院が増えております。私は以前、このレセプト点検の現場を横浜西口にある国保連の事務所で見せてもらったことがありますけれども、あれでは限界があると思いました。そして最近注目を浴びているのがポリファーマシー、つまり多量投薬です。さらに言うとドクターショッピング、先ほど重複頻回受診の話が出ましたがこの問題です。あと私たちの健康保険組合で問題視しているのが併用禁忌の飲み合わせです。1 番難しいのが残薬対策、薬の飲み残しの問題です。現時点では妙案はありません。本会としても常に最新情報を得ながらも薬の費用が膨張しないように、保健事業の中で今後の対策を講じることを期待しております。私が先日ある組合から聞いた話ですが、被保険者の若い女性が 1 ヶ月に 960 錠の睡眠薬を処方されているケースが発覚し、会社の産業医が本人のカウンセリングをしたのですが、結局体調不良により離職をしたそうです。また別の組合ですが、1 ヶ月に 35 箇所も医療機関を受診し、常に手元に薬がたくさんないと不安で暮らせないという方がいたケース等も聞いています。

私たち医療保険者としても、これらは将来に向けて非常に大きな問題だと認識しています。幸いにも逗子市は、国保健康課という国保と健康づくりが一体となって取り扱う部署となっています。先ほどエレベーターに乗ったところ、「エチケットとけんこうは歯みがきから」という掲示物が貼ってありました。このような啓発活動を今後も地道にどんどん進めてほしいと思っております。

【池上委員】今田中委員のおっしゃったことは本当にそのとおりだと思います。私はこの国保運営協議会というのは1年間で予算や支出をチェックするだけではなく、国保の運営そのものをどのようにして、保険料や医療給付をいかに減らしていくかということを啓蒙していくようなプロジェクトを検討しなければいけないと思っています。ただ流れのままに医者にかかって、受診料を払って、保険料をとってというのではなく、いかに医療費を減らす方向で医療保険者が取り組んでいくかというところにもっと協議会を活用していただきたいと思っております。

【丸山会長】そういうことも踏まえながら、運営協議会として今後検討していく必要があると思います。それではこれもちまして、平成30年度第3回逗子市国民健康保険運営協議会を終了させていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

閉会